

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)  
[PCT36条及びPCT規則70]

REC'D 31 AUG 2001

WINDO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 PH-933-PCT	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO0/01969	国際出願日 (日.月.年) 29.03.00	優先日 (日.月.年) 08.10.99
国際特許分類(IPC) Int.Cl <sup>7</sup> C12N15/11, A61K31/70, C12Q1/68, G01N33/15		
出願人(氏名又は名称) 独立行政法人産業技術総合研究所		

- 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。  
☐ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。  
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)  
この附属書類は、全部で                      ページである。
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。  
I ☒ 国際予備審査報告の基礎  
II ☐ 優先権  
III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成  
IV ☐ 発明の単一性の欠如  
V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明  
VI ☐ ある種の引用文献  
VII ☐ 国際出願の不備  
VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 27.04.01	国際予備審査報告を作成した日 15.08.01	
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員)  光本 美奈子	4B 2936
電話番号 03-3581-1101 内線 3448		

様式PCT/IPEA/409(表紙)(1998年7月)

## I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に  
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。  
PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- |                                     |                |                      |
|-------------------------------------|----------------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 _____ ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 _____ ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 _____ ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 _____ ページ/図、 | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 _____ ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 _____ ページ/図、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である \_\_\_\_\_ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語  
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語  
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表  
☒ この国際出願と共に提出されたフレキシブルディスクによる配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出されたフレキシブルディスクによる配列表  
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった  
☒ 書面による配列表に記載した配列とフレキシブルディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 図面の第 \_\_\_\_\_ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならない、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	4, 9-18	有
	請求の範囲	1-3, 5-8	無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-18	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-18	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: JP, 11-127864, A (工業技術院長) 18.5月.1999 (18.05.99)

文献2: Nature Biotechnology, Vol.14, No.3, (1996), p.303-308

請求の範囲1-3, 5-8

請求の範囲1-3, 5-8に記載された発明は、国際調査報告で引用した文献1により新規性を有さない。

文献1には、HIV-1 Tatタンパク質及びTat由来のペプチドに結合できるアプタマー（ミニ11G-31）が形成する二本鎖を、独立した二つのオリゴマーに分離し、該二つのオリゴマーをアニーリングすることによって、ミニ11G-31を模倣でき、Tat由来のペプチドと複合体を形成できることが記載されている。そして、文献1の第5図に示された二本のオリゴヌクレオチド鎖からなるアプタマーは、本願の構造式(II)及び(III)を有するものである。

したがって、請求の範囲1-3, 5-8に記載された発明は、文献1に記載された発明と区別できない。

請求の範囲4

請求の範囲4に記載された発明は、国際調査報告で引用した文献1-2により進歩性を有さない。

文献2には、ステム構造を形成するアームの一方端に蛍光物質が、他方端にクエンチャー物質が結合されていると、ステム構造を形成しているときは、蛍光を発さないが、このステム構造よりも安定なハイブリッドが形成されると、構造変化によって、二つのアームが離れ、蛍光が発せられるようになるので、このことを利用して、特異的なハイブリッド形成を検出できることが記載されている。

してみると、文献1に記載された、二本のオリゴヌクレオチド鎖がハイブリッド形成してできるアプタマーを検出できるようにするために、ステム構造を形成する一方のオリゴヌクレオチドの両端にそれぞれ蛍光物質及びクエンチャー物質を結合することは、当該技術分野の専門家にとって自明なことである。

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

## 第 V 欄の続き

請求の範囲 9-18

請求の範囲 9-18 に記載された発明は、国際調査報告で引用した文献 1-2 により進歩性を有さない。

あるタンパクと特異的に結合する物質を利用して、該タンパクの存在や量を検出することは、当該技術分野の専門家の周知技術であるから、文献 1 に記載された T a t タンパク質及び T a t 由来のペプチドに結合できる二本のオリゴヌクレオチド鎖からなるアダプターを T a t タンパク質の検出に用いることは、当該技術分野の専門家にとって自明なことである。